イベントのウィンドウとダイアログボックスの説明

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/events/reference_notifications_page.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

イベントのウィンドウとダイアログ ボックスの説明 1
Active IQ Unified Manager の通知ページについて 1
Eメール 1
SMTPサーバ 1
SNMP 2
Active IQ Unified Manager のイベント管理インベントリページについて 3
フィルタ コンポーネント 3
コマンド ボタン 3
[イベント]リスト 4
[イベントの詳細]ページ 6
Active IQ Unified Manager のイベント詳細ページについて 6
Active IQ Unified Manager のイベント情報セクションについて 8
Active IQ Unified Manager の推奨アクションについて 10
Active IQ Unified Manager のシステム診断について 11
Active IQ Unified Manager のイベント設定ページについて 12
コマンド ボタン 12
リスト ビュー 12
Active IQ Unified Manager でイベントダイアログボックスを無効にする 13
[イベント プロパティ]領域 13
コマンド ボタン 13

イベントのウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager の通知ページについて

Unified Managerサーバでは、イベントが生成されたときやユーザに割り当てられたときに通知を送信するように設定することができます。また、通知メカニズムを設定することもできます。たとえば、通知をEメールやSNMPトラップとして送信できます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Eメール

この領域では、アラート通知に対して次のEメール設定を行うことができます。

- 送信元アドレス

  アラート通知の送信元となるメールアドレスを指定します。この値は、レポートを共有する際の送信元アドレスとしても使用されます。[送信元アドレス]に「ActiveIQUnifiedManager@localhost.com」というアドレスが事前に入力されている場合、すべてのEメール通知が正しく送信されるように実際のEメール アドレスに変更する必要があります。

SMTPサーバ

この領域では、次のSMTPサーバ設定を行うことができます。

- ホスト名または**IP**アドレス

  SMTPホスト サーバのホスト名を指定します。このホスト名は、指定した受信者へのアラート通知の送信に使用されます。

- ユーザー名

  SMTPユーザ名を指定します。SMTPユーザ名は、SMTPサーバでSMTPAUTHが有効になっている場合にのみ必要です。

- パスワード

  SMTPパスワードを指定します。SMTPユーザ名は、SMTPサーバでSMTPAUTHが有効になっている場合にのみ必要です。

- ポート

  アラート通知を送信するSMTPホスト サーバで使用されるポートを指定します。

  デフォルト値は25です。

- **START/TLS**を使用する

  このチェック ボックスをオンにすると、TLS/SSLプロトコル（start_tlsおよびStartTLSとも表記）を使用してSMTPサーバと管理サーバの間のセキュアな通信が確立されます。

- **SSL**を使用する

  このチェック ボックスをオンにすると、SSLプロトコルを使用してSMTPサーバと管理サーバの間のセキュアな通信が確立されます。

SNMP

この領域では、次のSNMPトラップ設定を行うことができます。

- バージョン

  必要なセキュリティのタイプに応じて、使用するSNMPバージョンを指定します。[バージョン 1]、[バージョン 3]、[バージョン 3、認証を使用]、[バージョン 3、認証と暗号化を使用]の各オプションがあります。デフォルト値は[バージョン 1]です。

- トラップ宛先ホスト

  管理サーバによって送信されるSNMPトラップを受信するホスト名またはIPアドレス（IPv4またはIPv6）を指定します。トラップの送信先を複数指定するには、各ホストをカンマで区切ります。

  他のすべてのSNMP設定（バージョンやアウトバウンド ポートなど）がリスト内のすべてのホストで同じである必要があります。

- アウトバウンドトラップポート

  管理サーバによって送信されるトラップをSNMPサーバが受信する際に使用するポートを指定します。

  デフォルト値は162です。

- コミュニティ

  ホストにアクセスするためのコミュニティ ストリングです。

- エンジンID

  SNMPエージェントの一意の識別子を指定します。この識別子は、管理サーバによって自動的に生成されます。[エンジン ID]は、[SNMP バージョン 3]、[SNMP バージョン 3、認証を使用]、および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- ユーザー名

  SNMPユーザ名を指定します。[ユーザ名]は、[SNMP バージョン 3]、[SNMP バージョン 3、認証を使用]、および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- 認証プロトコル

  ユーザの認証に使用するプロトコルを指定します。プロトコルのオプションには[MD5]と[SHA]があります。デフォルト値は[MD5]です。[認証プロトコル]は、[SNMP バージョン 3、認証を使用]および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- 認証パスワード

ユーザの認証時に使用するパスワードを指定します。[認証パスワード]は、[SNMP バージョン 3、認証を使用]および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- プライバシープロトコル

  SNMPメッセージの暗号化に使用するプライバシー プロトコルを指定します。プロトコルのオプションには[AES 128]と[DES]があります。デフォルト値は[AES 128]です。[プライバシー プロトコル]は、[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- プライバシーパスワード

  プライバシー プロトコルの使用時のパスワードを指定します。[プライバシー パスワード]は、[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

SNMPオブジェクトとトラップの詳細については、"Active IQ Unified Manager MIB"をNetApp Support Siteからダウンロードできます。

Active IQ Unified Manager のイベント管理インベントリページについて

[イベント管理]インベントリ ページでは、現在のイベントとそのプロパティのリストを確認できます。イベントについて、確認、解決、割り当てなどのタスクを実行することができます。特定のイベントに対するアラートを追加することもできます。

このページの情報は5分ごとに自動的に更新され、最新のイベントが表示されます。

フィルタ コンポーネント

イベント リストに表示される情報をカスタマイズできます。次のコンポーネントを使用して、イベントのリストを絞り込むことができます。

- メニューを表示して、事前定義済みのフィルター選択肢のリストから選択します。

  たとえば、すべてのアクティブなイベント（新規および確認済みのイベント）、アクティブなパフォーマンス イベント、自分（ログインしているユーザ）に割り当てられているイベント、メンテナンス時間中に生成されたすべてのイベントなどの項目があります。

- 検索ペインに、イベントの一覧を絞り込むための語句（全部または一部）を入力します。
- [フィルタ]ボタン。[フィルタ]ペインを起動し、使用可能なすべてのフィールドとフィールド属性から条件を選択してイベントのリストを絞り込むことができます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 担当者

  イベントを割り当てるユーザを選択できます。イベントをユーザに割り当てると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、そのユーザの名前とイベントを割り当てた時刻が追加されます。

- 自分

  現在ログインしているユーザにイベントを割り当てます。

- 別のユーザ

  [所有者の割り当て]ダイアログ ボックスが表示され、イベントを他のユーザに割り当てたり再割り当てしたりできます。所有権のフィールドを空白にすると、イベントの割り当てを解除できます。

- 確認

  選択したイベントを確認します。

  イベントを確認すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、自分のユーザ名とイベントを確認した時刻が追加されます。確認したイベントについては、自分で対処する必要があります。

  情報イベントに確認応答することはできません。

- 解決済みとしてマークする

  イベントの状態を解決済みに変更できます。

  イベントを解決すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、自分のユーザ名とイベントを解決した時刻が追加されます。イベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークする必要があります。

- アラートを追加

  [アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、選択したイベントにアラートを追加できます。

- レポート

  現在のイベント ビューの詳細をカンマ区切り値（.csv）ファイルまたはPDFドキュメントとしてエクスポートできます。

- 列セレクターの表示/非表示

  ページに表示する列とその表示順序を選択できます。

[イベント]リスト

すべてのイベントの詳細がトリガーされた時刻の順に表示されます。

デフォルトでは、「すべてのアクティブなイベント」ビューが表示され、過去7日間に発生した、インシデントまたはリスクの影響レベルを持つ新規イベントと確認済みイベントが表示されます。

- トリガー時間

  イベントが生成された時刻。

- 重大度

イベントの重大度：重大 ()、エラー ()、警告 ()、および情報 ()。

- 状態

  イベントの状態：新規、承認済み、解決済み、または廃止済み。

- 影響度

  イベントの影響レベル：インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード。

- 影響範囲

  イベントの影響範囲：可用性、容量、パフォーマンス、保護、構成、またはセキュリティ。

- 名前

  イベント名。名前を選択して、そのイベントの[イベントの詳細]ページを表示できます。

- ソース

  イベントが発生したオブジェクトの名前。名前を選択して、そのオブジェクトの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

  共有QoSポリシーの違反の場合、このフィールドには、IOPSまたはMBpsが高い上位のワークロード オブジェクトのみが表示されます。このポリシーを使用する他のワークロードは[イベントの詳細]ページに表示されます。

- ソースタイプ

  イベントが関連付けられているオブジェクトのタイプ（Storage VM、ボリューム、qtreeなど）。

- 担当者

  イベントが割り当てられているユーザの名前。

- イベント発生源

  「Active IQポータル」のイベントか、「Active IQ Unified Manager」から直接のイベントか。

- 注釈名

  ストレージ オブジェクトに割り当てられたアノテーションの名前。

- 注記

  イベントに追加されているメモの数。

- 未払い日数

  イベントが最初に生成されてからの経過日数。

- 割り当てられた時間

イベントがユーザに割り当てられてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、割り当て時のタイムスタンプが表示されます。

- 承認者

  イベントを確認したユーザの名前。イベントが確認されていない場合は空白になります。

- 確認時刻

  イベントが確認されてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、確認時のタイムスタンプが表示されます。

- 解決済み

  イベントを解決したユーザの名前。イベントが解決されていない場合は空白になります。

- 解決時刻

  イベントが解決されてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、解決時のタイムスタンプが表示されます。

- 廃止時刻

  イベントの状態が「廃止」になった時刻。

[イベントの詳細]ページ

Active IQ Unified Manager のイベント詳細ページについて

[イベントの詳細]ページでは、選択したイベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベント ソースなどの詳細を確認できます。問題を解決するための考えられる対処方法に関する追加情報も確認できます。

- イベント名

  イベントの名前と最終確認時刻。

  パフォーマンス イベント以外のイベントの場合は、状態が「新規」または「確認済み」のときは最終確認時刻が不明なため、この情報は表示されません。

- イベント概要

  イベントの簡単な説明。

  イベントの説明には、イベントがトリガーされた理由が含まれる場合があります。

- 競合するコンポーネント

  動的なパフォーマンス イベントについて、クラスタの論理コンポーネントと物理コンポーネントを表すアイコンが表示されます。コンポーネントが競合状態にある場合は、アイコンが赤い丸で強調表示されます。

ここに表示されているコンポーネントの説明については、「クラスタコンポーネントとその競合が発生する理由」を参照してください。

[イベント情報]、[システム診断]、[推奨される操作]の各セクションについては、他のトピックで説明しています。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- メモアイコン

  イベントに関するメモを追加または更新したり、他のユーザが残したすべてのメモを確認したりできます。

アクションメニュー

- 自分に割り当て

  イベントを自分に割り当てます。

- 他者に割り当てる

  [所有者の割り当て]ダイアログ ボックスが開き、イベントを他のユーザに割り当てたり再割り当てしたりできます。

  イベントをユーザに割り当てると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、そのユーザの名前とイベントが割り当てられた時刻が追加されます。

  所有権のフィールドを空白にすると、イベントの割り当てを解除できます。

- 確認

  選択したイベントに確認応答し、アラート通知が繰り返し送信されないようにします。

  イベントに確認応答すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールド（[確認者]）に、自分のユーザ名とイベントに応答した時刻が追加されます。確認応答したイベントについては、自分で対処する必要があります。

- 解決済みとしてマークする

  イベントの状態を「解決済み」に変更できます。

  イベントを解決すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールド（[解決者]）に、自分のユーザ名とイベントを解決した時刻が追加されます。イベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークする必要があります。

- アラートを追加

  [アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、選択したイベントにアラートを追加できます。

Active IQ Unified Manager のイベント情報セクションについて

[イベントの詳細]ページの[イベント情報]セクションでは、選択したイベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベント ソースなどの詳細を確認できます。

イベント タイプに関係のないフィールドは表示されません。イベントに関する次の詳細を確認できます。

- イベント発生時刻

  イベントが生成された時刻。

- 状態

  イベントの状態：新規、承認済み、解決済み、または廃止済み。

- 廃止原因

  イベントが廃止になった理由（問題が修正されたなど）。

- イベント期間

  アクティブなイベント（新規および確認済みのイベント）の場合は、イベントが検出されてから最後に分析されたときまでの時間です。廃止状態のイベントの場合は、イベントが検出されてから解決されるまでの時間です。

  このフィールドは、すべてのパフォーマンス イベントに対して表示されます。その他のタイプのイベントについては、解決されるか廃止になったあとにのみ表示されます。

- 最終確認日時

  イベントがアクティブだった最終日時。

  パフォーマンスイベントの場合、この値はイベントトリガー時刻よりも新しい値になる可能性があります。これは、イベントがアクティブである限り、パフォーマンスデータが新たに収集されるたびにこのフィールドが更新されるためです。その他の種類のイベントの場合、新規または承認済み状態であれば、このコンテンツは更新されず、したがってフィールドは非表示になります。

- 重大度

  イベントの重大度：重大 ()、エラー ()、警告 ()、および情報 ()。

- 影響度

  イベントの影響レベル：インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード。

- 影響範囲

  イベントの影響範囲：可用性、容量、パフォーマンス、保護、構成、またはセキュリティ。

- ソース

  イベントが発生したオブジェクトの名前。

共有QoSポリシーのイベントの詳細を表示している場合、このフィールドには、IOPSまたはMBpsが高い上位のワークロード オブジェクトが最大3つ表示されます。

ソース名のリンクをクリックすると、そのオブジェクトの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- 出典注釈

  イベントが関連付けられているオブジェクトのアノテーションの名前と値が表示されます。

  このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- ソースグループ

  該当するオブジェクトがメンバーとして属しているすべてのグループの名前が表示されます。

  このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- ソースタイプ

  イベントが関連付けられているオブジェクトの種類（例：SVM、Volume、Qtree）。

- クラスター上

  イベントが発生したクラスタの名前。

  クラスタ名のリンクをクリックすると、そのクラスタの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- 影響を受けるオブジェクトの数

  イベントの影響を受けるオブジェクトの数。

  オブジェクトのリンクをクリックすると、インベントリ ページが表示され、現在このイベントの影響を受けているオブジェクトを確認できます。

  このフィールドは、パフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- 影響を受けるボリューム

  このイベントの影響を受けるボリュームの数。

  このフィールドは、ノードまたはアグリゲートのパフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- トリガーされたポリシー

  イベントを発行したしきい値ポリシーの名前。

  ポリシー名にカーソルを合わせると、しきい値ポリシーの詳細を確認できます。アダプティブQoSポリシーの場合は、定義されているポリシー、ブロック サイズ、および割り当てのタイプ（割り当てスペースまたは使用スペース）も表示されます。

  このフィールドは、パフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- ルール**ID**

  Active IQ プラットフォームイベントの場合、これはイベントを生成するためにトリガーされたルールの番号です。

- 承認者

  イベントに確認応答したユーザの名前と応答時刻。

- 解決者

  イベントを解決したユーザの名前と解決時刻。

- 担当者

  イベントへの対応が割り当てられているユーザの名前。

- アラート設定

  アラートに関する次の情報が表示されます。

  - 選択したイベントに関連付けられたアラートがない場合は、「アラートを追加」リンクが表示されます。

    リンクをクリックすると、[アラートの追加]ダイアログ ボックスが開きます。

  - 選択したイベントにアラートが1つ関連付けられている場合は、そのアラートの名前が表示されます。

    リンクをクリックすると、[アラートの編集]ダイアログ ボックスが開きます。

  - 選択したイベントにアラートが複数関連付けられている場合は、アラートの数が表示されます。

    リンクをクリックすると、[アラート セットアップ]ページが開き、それらのアラートに関する詳細が表示されます。

  無効になっているアラートは表示されません。

- 最終通知送信済み

  最新のアラート通知が送信された日時。

- 送信者

  アラート通知の送信に使用されたメカニズム（EメールまたはSNMPトラップ）。

- 前回のスクリプト実行

  アラートが生成されたときに実行されたスクリプトの名前。

Active IQ Unified Manager の推奨アクションについて

[イベントの詳細]ページの[推奨される操作]セクションには、イベントの考えられる理由

とイベントを解決するための推奨される対処方法が表示されます。推奨される操作は、イベントのタイプまたは超過したしきい値のタイプに基づいてカスタマイズされます。

この領域は、一部のタイプのイベントに対してのみ表示されます。

場合によっては、ページ上に「ヘルプ」リンクが用意されており、推奨される多くの操作に関する追加情報（特定の操作を実行するための手順など）を参照できます。一部の対処方法では、Unified Manager、ONTAP System Manager、OnCommand Workflow Automation、ONTAP CLIコマンド、またはこれらのツールの組み合わせを使用する場合があります。

これらの推奨される対処方法は、このイベントを解決するための一般的なガイダンスであることに注意してください。このイベントを解決するための対処方法は、それぞれの環境に応じて決める必要があります。

オブジェクトとイベントをより詳細に分析する場合は、*「ワークロードの分析」*ボタンをクリックしてワークロード分析ページを表示してください。

イベントによっては、Unified Managerの詳細な診断の結果、単一の解決策が提示されることがあります。解決策が利用可能な場合は、**Fix It** ボタンとともに表示されます。このボタンをクリックすると、Unified Manager がイベントの原因となっている問題を修正します。

Active IQ プラットフォームイベントの場合、このセクションには、問題とその解決策について説明した NetApp ナレッジベース記事へのリンクが含まれている場合があります（利用可能な場合）。外部ネットワーク アクセスのないサイトでは、ナレッジベース記事の PDF ファイルがローカルで開きます。この PDF ファイルは、Unified Manager インスタンスに手動でダウンロードするルールファイルの一部です。

Active IQ Unified Manager のシステム診断について

[イベントの詳細]ページの[システム診断]セクションには、イベントの原因となった可能性がある問題の診断に役立つ情報が表示されます。

この領域は、一部のイベントに対してのみ表示されます。

一部のパフォーマンス イベントについては、トリガーされたイベントに関連するグラフが表示されます。通常は、過去10日間のIOPSまたはMBpsのグラフとレイテンシのグラフです。これらのグラフを確認することで、イベントがアクティブなときにレイテンシに影響している、または影響を受けているストレージ コンポーネントを特定することができます。

動的なパフォーマンス イベントについては、次のグラフが表示されます。

- ワークロード レイテンシ - 競合状態のコンポーネントのVictim、Bully、Sharkの上位のワークロードについて、レイテンシの履歴が表示されます。
- ワークロード アクティビティ - 競合状態のクラスタ コンポーネントのワークロードの使用量に関する詳細が表示されます。
- リソース アクティビティ - 競合状態のクラスタ コンポーネントの過去のパフォーマンス統計が表示されます。

一部のクラスタ コンポーネントが競合状態にある場合は、これ以外のグラフが表示されます。

その他のイベントについては、ストレージ オブジェクトに対して実行されている分析タイプの簡単な説明が表示されます。複数のパフォーマンス カウンタを分析するシステム定義のパフォーマンス ポリシーの場合は、複数の行（分析されたコンポーネントごとに1行）が表示されることがあります。この場合、診断の横

に、その診断で問題が見つかったかどうかを示す緑または赤のアイコンが表示されます。

Active IQ Unified Manager のイベント設定ページについて

[イベント セットアップ]ページには、無効なイベントのリストが表示されます。また、関連付けられているオブジェクト タイプやイベントの重大度などの情報が提供されます。イベントのグローバルな無効化 / 有効化などのタスクを実行することもできます。

このページにアクセスできるのは、アプリケーション管理者ロールまたはストレージ管理者ロールが割り当てられている場合のみです。

コマンド ボタン

選択したイベントについて、各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 無効にする

  [イベントの無効化]ダイアログ ボックスを起動します。イベントを無効にする場合に使用できます。

- 有効にする

  以前に無効にするように選択したイベントを有効にします。

- アップロードルール

  外部ネットワーク アクセスのないサイトが Active IQ ルールファイルを Unified Manager に手動でアップロードできるようにする「アップロードルール」ダイアログボックスを起動します。ルールはクラスターの AutoSupport メッセージに対して実行され、Active IQ プラットフォームで定義されたシステム構成、ケーブル配線、ベストプラクティス、および可用性に関するイベントを生成します。

- **EMS**イベントを購読する

  EMSイベントの購読ダイアログボックスを起動します。このダイアログボックスを使用すると、監視対象のクラスタから特定のイベント管理システム（EMS）イベントを受信するように購読できます。EMSは、クラスタ上で発生するイベントに関する情報を収集します。登録済みのEMSイベントに関する通知を受信すると、適切な重要度でUnified Managerイベントが生成されます。

リスト ビュー

リスト ビューには、無効なイベントに関する情報が表形式で表示されます。列のフィルタを使用して、表示するデータをカスタマイズできます。

- イベント

  無効なイベントの名前が表示されます。

- 重大度

  イベントの重大度が表示されます。重大、エラー、警告、情報のいずれかです。

- ソースタイプ

生成されるイベントのソース タイプが表示されます。

Active IQ Unified Manager でイベントダイアログボックスを無効にする

[イベントの無効化]ダイアログ ボックスには、イベントを無効にできるイベント タイプのリストが表示されます。イベント タイプの特定の重大度のイベントを無効にするか、一連のイベントを指定して無効にできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

[イベント プロパティ]領域

[イベント プロパティ]領域で、イベントについて次のプロパティを指定します。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、「警告」、または「情報」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  名前に指定した文字を含むイベントをフィルタできます。

- イベントのマッチング

  指定した重大度タイプおよびテキスト文字列に一致するイベントのリストが表示されます。

- イベントを無効にする

  無効にするように選択したイベントのリストが表示されます。

  イベント名に加えてイベントの重大度も表示されます。

コマンド ボタン

選択したイベントについて、各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 保存して閉じる

  イベント タイプを保存してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。